

■ 1964年東京大会の選手団長を務めた五輪の哲人の精神を継承 ■

第28回「大島鎌吉スポーツ文化賞」受賞者が決定

受賞者：山口高志氏(野球)、坂井隆一郎(陸上)、
喜多美結(デフテニス)、高野芹奈(セーリング)、宮原知子(スケート)など

関西大学ではこのたび、広く社会的なスポーツ文化の発展に貢献し、顕著な実績を残した団体および個人に贈る「関西大学体育振興大島鎌吉スポーツ文化賞」の受賞者を決定しました。

本件の
ポイント

- ・「五輪の哲人」とも称された偉大なるOB・大島鎌吉氏に由来する本学独自の文化表彰
- ・2019年度に活躍した本学アスリート21名ならびに3団体の功績を称える
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピックムーブメントのさらなる機運醸成を図る

今年度は、「広く社会的なスポーツ文化に貢献し、顕著な実績を残した個人」として、本学OBで元プロ野球選手の山口高志さんに同賞を授与します。本学体育会学生の部では、すでに東京2020大会の代表に内定しているセーリングの高野芹奈さんをはじめ、陸上100mで学生歴代7位の10秒12を記録した坂井隆一郎さん、デフテニス世界選手権で優勝した喜多美結さんらが受賞。

また今回から、体育会に所属していない学生も表彰対象として拡大し、バトントワーリング世界大会で優勝した畑森美玖さん&古野宏汰さんペアや、ICUチアリーディング世界選手権大会の優勝チームメンバー(鬼丸辰也さん、平俊哉さん、吉野明里さん)、全日本モトクロス選手権で優勝した久保まなさんらにも同賞を授与します。

■「関西大学体育振興大島鎌吉スポーツ文化賞」とは

1932年のロサンゼルス五輪・陸上三段跳びで銅メダルを獲得、そして1964年の東京五輪の招致に貢献し、同大会の日本選手団の団長等を務めるなど、五輪の哲人と称された本学OBの故大島鎌吉氏の偉業を偲び、本学が1988年に創設した文化表彰制度。過去受賞者のなかには、清水希容選手(空手、本学卒業生)や高野芹奈選手(セーリング、本学在学中)など、東京2020大会に出場予定の選手も。

【受賞者(敬称略)】

- <広く社会的なスポーツ文化に貢献し、顕著な実績を残した個人> 山口 高志
 <顕著な成績を収めた本学学生(個人・団体)> 計21名、3団体
- ・坂井 隆一郎(陸上競技部、2019日本学生個人選手権100m優勝)
 - ・喜多 美結(テニス部、第2回世界デフテニス選手権優勝 ※日本人初)
 - ・高野 芹奈(ヨット部、2020年東京五輪・セーリング49FX級代表内定)
 - ・宮原 知子(アイススケート部、2020年世界フィギュアスケート選手権出場) ほか

【備考】

3月6日(金)の授与式については、このたびの新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため例年より規模を縮小し、受賞者および大学関係者数名のみで実施します。クローズド形式での開催となりますこと、何卒ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当：寺崎、浦田

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 Tel.06-6368-0201 Fax.06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp

■ 第28回(2019年度)受賞者 ※敬称略

<広く社会的なスポーツ文化に貢献し、顕著な実績を残した個人> (計1名)

氏名	所属	受賞理由
ヤマグチ タカシ 山口 高志	関西大学体育会 野球部OB	1972年6月第21回全日本大学野球選手権大会で優勝し4試合全てに登板。その年に行われた第1回日米大学野球選手権大会に出場し、大会MVPを受賞。1972年11月第3回明治神宮野球大会で優勝。卒業後は、松下電器産業に入社し野球部で活躍後、1975年に阪急ブレーブス入団。その年に日本シリーズMVPと新人王、パ・リーグプレーオフ優秀投手賞を獲得。1982年の引退までにオールスターゲーム4回出場。現役引退後は、阪急ブレーブス、阪神タイガースで20年以上に渡りコーチとしてプロ野球界に貢献。2016年から関西大学野球部アドバイザーに就任。2019年明治神宮野球大会にて47年ぶりの全国大会準優勝に貢献。

<本学学生>

◆ 個人の部 (計21名) ※授与式当日は、試合や練習等の都合により、宮原知子、高野芹奈、中村優、黒川圭介、羽田健人、吉野明里は欠席の予定です。

氏名	クラブ名(競技名)	学部・学年	受賞大会名
ミヤハラ サトコ 宮原 知子	アイススケート部	文 4年次生	バヴァリアンオープン2019/USインターナショナルクラシック/ ISUグランプリシリーズ 中国杯
イチハン ショウヤ 市橋 翔哉	アイススケート部	社会安全 4年次生	ISU世界フィギュアスケート国別対抗戦2019
ナカベツ ミズキ 中別府 瑞希	ソフトテニス部	文 2年次生	第1回アジア大学ソフトテニス選手権大会(10ヵ国14チーム参加)
フルタ マユ 古田 麻友	ソフトテニス部	人間健康 3年次生	第1回アジア大学ソフトテニス選手権大会(10ヵ国14チーム参加)
タングチ ムツキ 谷口 睦	ソフトテニス部	商 3年次生	第1回アジア大学ソフトテニス選手権大会(10ヵ国17チーム参加)
マスタ ユウタ 増田 祐太	ソフトテニス部	商 1年次生	第1回アジア大学ソフトテニス選手権大会(10ヵ国17チーム参加)
キタ ミユ 喜多 美結	テニス部	化学生命 2年次生	第2回世界デフテニス選手権大会
タカノ セナ 高野 芹奈	ヨット部	人間健康 4年次生	49erFX級世界選手権
ナカムラ シュウ 中村 優	アイススケート部	政策創造 4年次生	第74回国民体育大会冬季大会
オカモト アツミ 岡本 敦美	拳法部	文 4年次生	第35回全日本学生拳法個人選手権大会
オオノ ナナコ 大野 菜々子	テニス部	社会 3年次生	第72回北信越テニス選手権大会
サカイ リュウイチロウ 坂井 隆一郎	陸上競技部	人間健康 4年次生	2019日本学生陸上競技個人選手権大会
クロカワ ケイスケ 黒川 圭介	サッカー部	法 4年次生	2019年度第43回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント(全国大会3位、全日本大学選抜、J1・ガンバ大阪に加入内定。(2018年12月)、2019年4月にJリーグデビュー。今季は3試合に出場)
ハネダ ケント 羽田 健人	サッカー部	総合情報 4年次生	2019年度第43回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント(全国大会3位、J1・大分トリニータに加入内定。(2019年4月)、2019年11月にJリーグデビュー。1試合に出場)
ハタモリ ミク 畑森 美玖	バトントワーリング	人間健康 3年次生	第10回WBTF インターナショナルカップ
フルノ コウタ 古野 宏汰	バトントワーリング	人間健康 2年次生	第10回WBTF インターナショナルカップ
オニマル タツヤ 鬼丸 辰也	チアヒップホップ	文 1年次生	ICUチアリーディング世界選手権大会
タイラ シュンヤ 平 俊哉	チアヒップホップ	人間健康 2年次生	ICUチアリーディング世界選手権大会
ヨシノ アカリ 吉野 明里	チアヒップホップ	人間健康 2年次生	ICUチアリーディング世界選手権大会
ウチダ ゲンタ 内田 弦大	トライアスロン	社会安全 4年次生	ASTCTライアスロンアジアカップ
クボ マナ 久保 まな	モトクロスバイク	総合情報 3年次生	全日本モトクロス選手権

◆ 団体の部 (計 3 団体)

クラブ名	受賞大会名
アイススケート部	第92回日本学生氷上競技選手権大会 フィギュア競技 優勝
拳法部	第64回全日本学生拳法選手権大会 女子団体 優勝
野球部	第五十回記念明治神宮野球大会 準優勝

■ 過去の主な受賞者 (関西大学体育振興大島鎌吉スポーツ文化賞) ※敬称略

＜本学体育会会員のうち、顕著な成績を収めた本学体育会学生 (個人・団体)＞
高橋大輔、町田樹、宮原知子 (いずれもフィギュアスケート)、清水希容 (空手)、
前川篤也 (サッカー)、八川綾佑 (射撃)、高野芹奈 (セーリング)

＜広く社会的なスポーツ文化の発展に貢献し、顕著な実績を残した個人または団体＞
片倉道夫 (1964年東京五輪閉会式ディレクター)、平尾誠二 (ラグビー)、
荒木香織 (元ラグビー日本代表メンタルコーチ)、市口政光 (レスリング)、
佐藤信夫 (フィギュアスケート)、古川好男 (サッカー)

■ 大島鎌吉 (おおしま けんきち) <1908.11.10-1985.3.30>

関西大学校友 (1934年法学部卒)。陸上選手。JOC 名誉委員。
創立 130 年超の歴史の中で、オリンピックに出場した本学の
アスリートは延べ 42 人にのぼる (候補選出者も含む)。

そのうち、メダルを獲得したのは大島鎌吉氏 (陸上三段跳び、
1932年夏季ロサンゼルス五輪銅メダル)、市口政光氏 (レスリング、
1964年夏季東京五輪金メダル)、湯口栄蔵氏 (サッカー、1968
年夏季メキシコシティ五輪銅メダル)、高橋大輔氏 (フィギュア
スケート、2010年冬季バンクーバー五輪銅メダル) の 4 人。

大島鎌吉氏は、昭和初期に本学陸上部が第一期黄金時代を迎え
たときの主将で、大学在学中にロサンゼルス五輪 (1932年) で
銅メダルを獲得。続くベルリン五輪 (1936年) では、選手団の
主将として出場し、6位入賞の成績を残した。

選手活動を終えた後は、毎日新聞社の記者としてベルリン特派
員を務め、ヒトラーとの単独記者会見やベルリン陥落など、歴史
的な場面にも遭遇した経験を持つ。戦後は、東京五輪の選手強化
対策本部長や日本選手団団長なども務め、1982年には青少年教
育や国際交流を推進した功績により、アジア人初となる「オリ
ンピック平和賞」を受賞した。



< 関西大学年史編纂室提供 >

以 上